

第75回 清の統治と発展

1 清の平和

・中国を統一した清は、明の制度をほぼ受け継いで体制を整えた。その後は3代にわたって有能な皇帝が続き、安定した統治を行うとともに領土を拡大した。



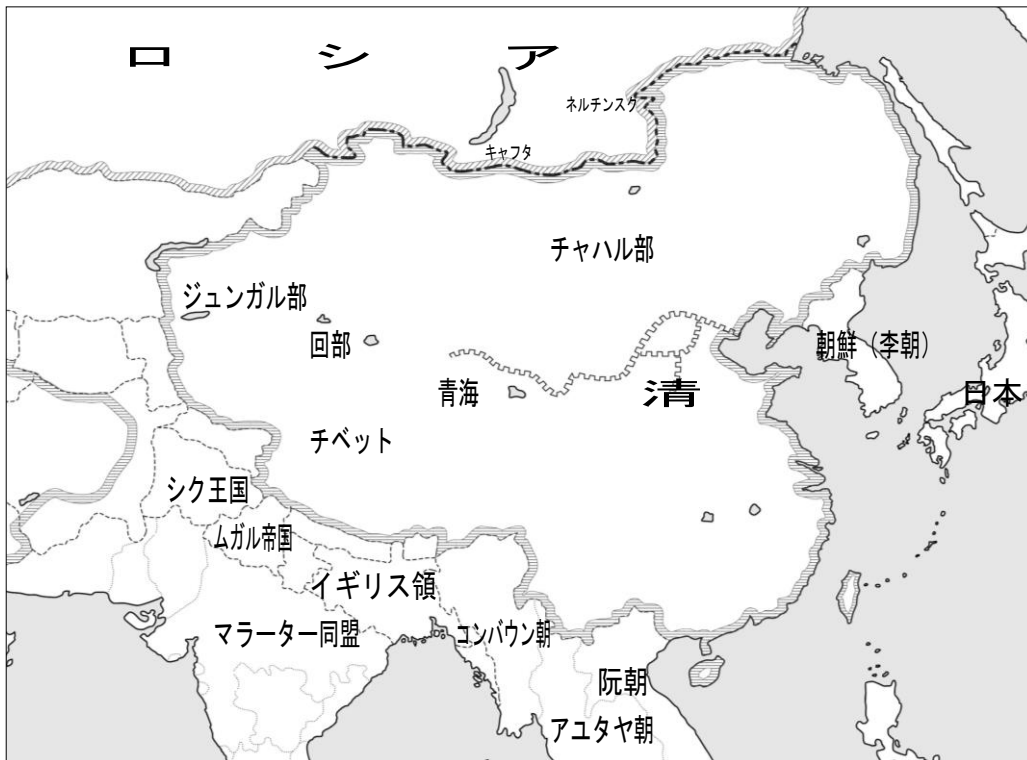
雍正帝
猛烈な仕事人間で、朝4時から夜12時まで仕事をした。死因は過労死とも。

- ◆ () (世宗) (在位 1722～1735 年)
 - ・1724 年、() した。
※日本とちがい、宣教師の国外追放や信者への厳しい弾圧は行われなかった。
 - ・1727 年、ロシアと() を締結した。
→モンゴルとシベリア方面の国境が決められた。
 - ・1732 年、() を設置した。
→それまでの内閣大学士にかわり、軍事行政における最高機関となった。



乾隆帝
10 度の遠征に全て勝利し、「十全老人」と呼ばれた。しかし晩年には衰退の兆しが見え始めた。

- ◆ () (高宗) (在位 1735～1795 年)
 - ・1757 年、外国との貿易港を() した。
→特許商人組合である() が、貿易を独占した。
→1793 年、イギリス人の() が通商を求めて来航したが、清は拒否した。
 - ・1758 年、() 部を完全に滅ぼし、東トルキスタン (回部) と合わせて、() と名づけて支配した。



乾隆帝
この西洋風の肖像画を描いたのは、イタリア人のカステリオーネ (郎世寧) である。



廃墟となる前の円明園
カステリオーネは、ヴェルサイユ宮殿を模したバロック式の円明園の設計も行った。後にアロー戦争で廃墟となった。

<清の辺境統治>

- ・征服したモンゴル・新疆・青海・チベットを（ ）として自治を認めた。
→新疆ではウイグル人のベグ、チベットではダライ=ラマなど現地人に支配させた。
→藩部を管理する中央の機関として、（ ）が置かれた。
- ・また朝鮮（李氏朝鮮）、ベトナムの阮朝、ビルマ（ミャンマー）のコンバウン朝などは、清に朝貢する冊封体制下の国々であった。

2 漢民族（漢人）に対する清の政策

- ・清は、満州人（女真）という異民族が中国を支配した征服王朝である。
→中国の制度を受け継いで中国の伝統に理解を示す一方で、満州族の習慣を漢人（漢民族）に押しつけ、反清の思想を厳しく取り締まる面もあった。

<漢人に対するアメ>

- ・重要な役職には、満州人と漢人を同じ人数にする（ ）を行った。
- ・また官吏任用制度として、中国伝統の（ ）を行った。
- ・中国伝統の学問を尊重し、『 』・『 』・『 』などの編纂を国家事業として行った。

<漢人に対するムチ>

- ・清は、満州人の髪型である（ ）を、漢人に強制した。
- ・北京遷都後、満州からの移住者のために漢人の土地を強制没収する圈地を行った。
- ・清に対して批判的な文章を書いた者を激しく弾圧する（ ）を行った。
- ・また（ ）によって、反清的な書物は焼き捨てられた。



辮髪(弁髪)

後頭部を伸ばして後ろにたらずのが女真(満州)、頭頂部を伸ばすのが契丹、両脇を伸ばすのがモンゴルと、実はいろいろなスタイルがある。漢民族からすれば、日本のちょんまげも辮髪のひとつか。



ラーメンマン

私の世代は、辮髪というすぐにこの人が思い出されるんですけど、みんなは知らないだろうなあ。



紫禁城

北京の紫禁城は、明代に建設が始まり、李自成の乱で焼失したが清代に再び宮殿となった。現在は故宮と呼ばれている。中国行くなら、一度は観ておくべき。

3 清の混乱のはじまり

- ・清は康熙帝・雍正帝・乾隆帝の時代に最盛期をむかえたが、乾隆帝の末期（18世紀末）から衰退の兆しを見せ、農民が負担軽減を求める抗糧が頻発した。

◆嘉慶帝（在位 1795～1820 年）



嘉慶帝

清の皇帝 12 人は全員覚えた方がいいが、この嘉慶帝だけはまず入試に出ない。

- ・このころから（ ）の害がひどくなった。
→1796 年に輸入禁止としたが、密輸が続いた。
- ・1796 年、（ ）が起こった。
- ・1813 年、天理教徒の乱が起こった。



アヘン中毒者の末路
こうなったら人生ゲームオーバーである。